

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171100144
法人名	社会福祉法人 九栄会
事業所名	グループホーム 石動
所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町石動3210番地 (電話) 0952-53-5420

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年10月29日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】(平成20年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤	5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	14,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(10月9日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	84 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	最所医院、肥前精神医療センター、塚本歯科医院、西谷クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>田園地帯の住宅地を走る県道から50mほど入った所に、民家を建て増し、改造し、開設されている。ホームはすっかり地域に溶け込んでおり、地域の各種行事に参加したり、ホームに来てもらうなど交流が行われ、緊急時の協力体制も確保されている。入居者は、その日の気分や話の流れ等で戸外に出ることが多く、又、経験・力を活かして家事や畑仕事をするなど自由な時間を活き活きと過ごしており、入居者の表情や素振りは職員の日頃の支援ぶりが窺える。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の課題については改善計画が作られ、月例会議でその成り行きが順次報告されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価の意義や目的を理解しており、全員で評価項目を分けてそれぞれが評価した後、月例の会議で話し合い、要改善事項をまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一回運営推進会議を開催しており、前回の会議で取り上げられた検討事項や懸案事項についてはその成り行きについて報告し合っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に苦情、意見用の目安箱を置いている。家族訪問時や家族会に意見・苦情・不満が無いか常に問いかけ、何でも気軽に言って貰えるよう話している。出された意見・要望等については、ミーティングで話し合い運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地区の老人会・敬老会・文化祭・清掃活動等地区行事には入居者と一緒に積極的に参加している。又、ホームでの七夕祭りやふれあい祭りバーベキューでは、地区の子どもたちや大人との交流が行われている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域との交流を通じて地域生活の継続支援、又ホームと地域の関係性を謳った理念が作られている。		
		○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は毎日朝礼時に理念を朗読しており、ミーティングや会議では理念に則った具体的なケアのあり方について意見の統一が図られている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入しており、老人会・敬老会・文化祭・清掃活動等の行事には入居者と共に積極的に参加している。又ホームでのふれあい祭り(バーベキュー)や七夕には地域の人や子供たちも来て貰う等交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義等を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価については、改善計画を作り取り組み状況などを会議で報告している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、前回の会議で取り上げられた検討事項や懸案事項についてはその成り行きについて報告し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町や地域包括支援センターとはよく行き来し、入居者の紹介を得たり介護教室の講師をする等相互理解も進んでいる。県や町職員の研修場所としてホームを活用して貰い、又短大や中高生のボランティアも受け入れ職員や入居者との交流も図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りを発行し家族に送付している。家族訪問時には行事の写真を見てもらったり、暮らしぶり等について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時や家族会等で、常に問いかけて何でも気軽に言ってもらえるよう話している。出された意見、要望等についてはミーティングで話し合い、反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者、家族との信頼関係を築くためにも、なじみの職員がいることが重要と考えているが法人内の異動はある。しかし、そういう場合でも法人内での交流をしたり異動・退職者にホームへ遊びに来てもらったり、再雇用を行ったりする等、入居者へのダメージの防止・軽減に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の研修をはじめ外部研修は出来るだけ多くの職員が受講出来るようにしている。法人内の研修やホームでの勉強会又ホーム独自のリーダー制や行事開催時の輪番実行委員制等で職員のトレーニング、レベルアップが図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や支援団体の例会や情報交換会に出席し交流を図っている。又同業者との勉強会や施設相互訪問、講師招聘等でサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面談等で生活状態を出来るだけ把握し、デイサービスや一週間程度の訪問利用をしてもらうなどホームでの生活が安定するのを見極めて入居に移行している。又入居当初は家族の訪問をできるだけ多くしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという見方を全職員が共有しており、職員は日ごろからことわざや料理の仕方、漬物漬け、野菜の肥料やりや畑仕事など入居者に教えてもらうことも多い。又そうした場面が多く持つよう場面作りや声かけに配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりの中で声をかけ、希望・意向の把握に努めている。会話・表情・行動等からその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。それが困難な場合でも本人本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が日ごろの関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞き、又かかりつけ医師の意見も取り入れて、介護計画案を作成し、月例会議で全職員が話し合っ計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行われており、状況の変化及び本人・家族の要望に応じて随時見直しが行われ、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況等に応じて、各種送迎や通院、外泊支援等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人なじみのかかりつけ医、又は本人・家族が希望する協力医療機関の中のかかりつけ医の受診をするようになっている。月に2回の訪問診療や臨時の往診など、かかりつけ医との関係を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化した場合の介護、看取り介護について明記されており、家族・医師、職員を交えて話し合いを行っている。又職員の対応能力向上のための研究会も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助等も羞恥心に配慮した声かけがさりげなく行われている。ホーム便りや掲示写真、研修資料等も本人・家族の同意・了解を得て使用するなど、誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、入居者は自分に合ったペースで自由に時間を過ごしており、職員は一人ひとりの状態や希望、思いを尊重しながら柔軟な支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや食事の準備から片付まで、出来る人には一緒にやってもらい、入居者と職員と一緒に食事を和やかに取っている。献立に入居者の希望を取り入れたり、月に数回は一緒に弁当を作り戸外へ出かけるなど食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2日に1回、午後の入浴であるが、続けて入ったり就寝前に入るなど希望に応じた対応で、入浴を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や畑仕事など得意分野でそれぞれその人の経験や力を発揮して貰っている。又そのための場面作りをしたりお礼の言葉も伝えている。なお、遠出の外出や地域の行事参加などの楽しみごとを入居者と相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの外出行事や音楽リハビリの他、その日の思いつきや希望で散歩や買い物、カラオケ、ドライブ、園児との交流、弁当を持っての外出等良く戸外へ出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員による見守りを徹底し、入居者の外出の気配を察知した場合、それを止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、又は同行するなどの対応が行われている。なお、地域の人から外出を通報してもらい協力体制が出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力を得て火災避難訓練を入居者と一緒に行っている。地域の協力体制については、ホームの前後の住人から強い協力を得ているほか、自治会を通じて協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。又、管理栄養士の専門的アドバイスを貰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量は調整され、西日の当たる窓にはレースのカーテンが取り付けられている。又、玄関や居間には季節の花々が活けられ、廊下や居間に季節の壁飾りや入居者手づくりの壁飾りが飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由である。タンスや小物入れのほか、写真や飾り物、使い慣れた日用品等が置かれ、入居者の居心地のよさに配慮している。		